

有限会社 スリー・エフ・シー・デンタルラボ

ものづくり技術

成長分野型

歯科技工に関わる長年の業界経験 歯科用CAD/CAMシステムの導入

事業 内容

義歯や補綴物を製造 和歌山県内の歯科医院が営業基盤

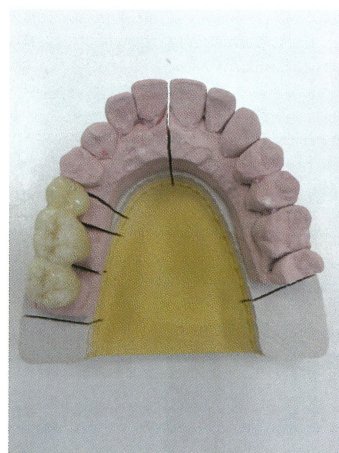
1992年(平成4年)設立の義歯(入れ歯)や補綴物(差し歯など)の製造を専門とする企業である。代表取締役社長である植田氏が歯科技工士専門学校卒業後、歯科技工師の国家資格を取得し6年間歯科医院に勤務、その後独立した。30年以上の業界経験を有し、技術面での信頼と実績がある。

近年の業務は、CAD/CAM冠の製造が売上の半分を占める。CAD/CAM冠はコンピューターによる設計／加工で製造した歯冠であり、歯の欠損を修復する歯冠補綴のうち保険適用内のものに使用される。プラスチックの被せ物と比較しても割れにくく、手作業でなくコンピューター制御のため精度も高く丈夫で白い歯が製作される。

そのほか、ジルコニアと呼ばれ、ダイヤモンドの代わりとして使われるほど硬く透明感のある素材を加工し、歯科用被せ物を製造している。ワックスと呼ばれる型材も製作し

ており、歯科技工業務全般を手掛ける。

納入先としては、和歌山県内の歯科医院が多く、一部同業者筋から請け負っている加工業務もある。



補助 事業

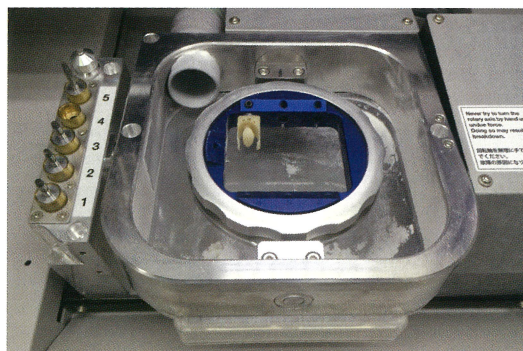
業界内でも手動からコンピューター化 念願であったCAD/CAMシステムを導入

2014年4月からCAD/CAM冠が保険適用となったことにより、CAD/CAM冠の需要増加が見込まれた。

業界内では、数年前からCAD/CAMシステムを利用する企業が増えはじめており、同業者に遅れをとらないためにもCAD/CAMシステムの導入をできるだけ早いタイミングで行いたかった。また、機械加工の工程を外注していたことから配送に日数を要し、外注費負担も重かったため、この点の改善も進めたかった。

しかしながら、口腔内に装着する修復物(差し歯や被せ物)の設計および加工に用いられる複数の道具や装置をCAD/CAMシステムに統合する金銭的負担は重く、躊躇していた。

そこで、今回の補助事業を利用し、資金負担を軽減するかたちでCAD/CAMシステムの導入を試みた。



成果

CAD/CAMシステムの導入が売上に直結 競争力の向上にもつながる

歯科用CAD/CAMシステムを導入し、テストを行った後、2014年12月より受注体制を整え製造を開始した。

2015年1月から同年8月の8ヶ月間において、CAD/CAM冠の製造本数は332本となり、前年同期比約11倍となった。ジルコニア冠に関しても8ヶ月累計で製造本数119本、前年同期比約6倍となり、本補助事業による同システムの導入が売上に直結した。

また、自社内一貫生産体制ができるようになったため外注に出すことが減り、懸案事項であった外注費の抑制にもつながった。製造日数に関しても、外注を多く利用していた

頃と比べて3～5日程度短縮され、短納期での対応が可能となった。また、手作業からコンピューター化したことにより高度な精密仕上げが可能となり、手作業時よりも優れた仕上がり具合である。

その結果、今まで同社には引合いのなかった加工も依頼が入るようになり、既存得意先からの受注量拡大につながるなど競争力が向上した。

目標値としては、毎月合計100本の納品を目指しており、既存得意先に加え新規取引先からのコンスタントな受注を得て、取引数量を拡大していく予定だ。

今後の 展開

新規雇用・育成も視野に 設備投資にも意欲的

CAD/CAMシステムの導入以来、売上は右肩上がりであり、今後もこの流れを維持するために新規取引先の開拓を進め、他技工所とのネットワーク構築を進めて営業面を強化していく。ただ、受注量増加に合わせて安定した生産体制の構築も不可欠である。

具体的には、歯科技工士であるCADオペレーターの新規雇用育成を行っていききたい考えである。3次元CADでの作業はパートタイム勤務が可能であるため、結婚や妊娠、育児などで離職中の女性歯科技工士の雇用の受け皿になるとも考えており、そのような人材の獲得も検討している。

また、現在1台しかない加工機械を新たに2台追加購入

し、生産体制を整えていきたい考えだ。CAD/CAM冠、ジルコニア冠、ワックスそれぞれの製品に1台ずつ加工機械を用意していきたいとしている。

加えて、従来の切削型加工機よりも材料を積層する3Dプリンターのほうが時間を短縮し、材料費も削減できるため、導入を視野に入れている。

本補助制度で導入したシステムが売上に直結し、CAD/CAM冠が保険適用されたことも同社にとって追い風となっている。足元を固めつつ、設備投資のタイミングも見極めていきたい。

